

言葉というもの

高岡教区 光明寺 住職 磯原孝雄

住職という仕事に就いて既に二十五年経ちました。なりたての頃、学校を出て佛教の学びからしばらく離れていたのが、久し振りに本山で刺激を受け、新しい教材に触れたいと思い、短期間(一週間)の布教使研修に参加しました。一回で合格出来ず二回受講することになったのは、私にとって幸いでした。

そして図らずも布教使という立場で、自坊以外の法座でも話す機会をいただくことになりました。

布教の現場に出て、話す言葉の重み、こわさ、大切さを強く感じています。普段何気なく無意識にしゃべっている言葉の中に実に多くの差別語、他人を傷付ける言葉や複雑な言葉があることを感じております。

2015年
(平成27年)
5月31日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区五位組

題字・織田隆夫

自分自身の体調やその時の気分によっても随分左右されることもありま

す。

大経(仏説無量寿経)の東方偈の中に「聞法能不忘 見敬得大慶」とあり、宗祖親鸞聖人はそれをただかかれて正信偈に「獲信見敬大慶」と讃嘆されています。日頃の生活のなかでお互いに敬いの心を忘れないことの大切さを感じます。

戦時下に「敵性語排斥」が行われました。「英語を使つてはいかん」ということで「カレーライス」が「辛味入り汁掛け飯」などという時代もありました。昨今は「放送禁止用語」というのがあります。政治家が公の場で「不適切な発言」をして釈明に汲々とする場面が度々あります。聞いた人を傷付けたら、差別を強調する言葉は放送を始めてとして公の場では使われないことになっていきます。そこには単に使うてはいけない言葉としてだけではなく、どういう意図でその言葉を発したのか問われます。

この放送禁止用語の中に「坊主」という一語が入っているそうです。「へえ」と思いました。

この場合「お坊さん、僧侶」とすべきだそうです。坊主で連想して出てくるのは「くそ坊主、だら坊主」等、これ以上は書けません。

坊主と言われて思い出されるのが、一休禅師の「襟巻のあたたかそ

うな黒坊主、こやつが法は天下一なり」です。親鸞聖人の二百回大遠忌法要に参拝された時に聖人の黒漆の坐像に帽子(もうす)を首に巻いておられる姿を拝まれたものです。一休禅師は臨済宗の大家で、その当時、蓮如上人と親交があり、浄土真宗の教えにも通じておられたのでしよう。洒脱で温かみを感じるから「坊主」を卑下した事になっていません。しかし、どんな適性であっても相手を傷付けることが出来るのが言葉です。

大経には「和顔愛語 先意承問」とあり、また先にあげた東方偈のあとに「則我善親友」と続きます。

弥陀釈迦二尊が、これぞ「我が善き親友」と喜ばれるあり方、生き方、死の迎え方を真剣に問い続けねばと思っております。

自坊紹介

岡山

教願寺

高岡市 内島

教願寺の開創は一七一四（正徳四）年、四日市村浄明寺配下として、門前の柴野地内に一字を建立したのが始まりです。開基任職は内島の住人存流であったと伝えます。

これより数十年先まで、大字内島、字荒屋敷に西光寺の分寺があつたのが、故あつて越前三国に移転したために、内島（現在の内島・池田・荒屋敷）地内に寺はなくなり、住民の要請があつて、恐らくは西光寺門徒の中の一人が剃髪して、浄明寺の配下となり、地域内の寺役を務めることとなつたものと推測されます。

一八六五（慶応元）年に木仏寺号許可と伝えますが、五世自教までは浄明寺門前にあつた教願寺が、寺基を現在地内島に移転したのは六世教誠の時に、明治八年です。

移転後間もない明治十六年、住職教誠、後継傳誠が流行の腸チフスで死去し、次男法城が十一歳で継職、一大窮地に陥りますが、周囲の寺々のご住職方の励ましと地域の「門徒衆の支えを被つて何とか寺を護持し、十世法英の現在を迎えております。



教願寺

第十一期五位組
連続研修会開催について
山岸智史

今年の三月から第十一期

五位組連続研修会（連研）がスタートしました。連研は、「名ばかりの門徒や形だけの僧侶であつてはならない。現実社会の色々な問題に直面する中で、阿弥陀如来の願いにたずね、自らの進むべき道を問い、念仏をよりどころに生きる門徒僧侶でありたい」という願いから始まり、五位組では約三十六年前に第一期がスタートし、今日まで至りました。もはや、連研は五位組の活動の中核をなしているといえます。

この連研の特徴は、一方的に講師の話の聞くというのではなく、受講者が十人弱のグループに分かれて、班別で話し合うというスタイル（話し合い法座）をとっています。「十二の問い」（お仏壇や

お経といった身近な仏事から差別や戦争といった社会的課題までの問い)に対する自らの思いをお互いに語り合い聞き合っていくことで、これらの「問い」が自らの課題となっていくのです。仏教の教えを知識的趣味的に学ぶのではなく(それが悪いわけではありません)、担うべき課題を見出ししていく場が連研なのです。

その課題を担うことによつて、冒頭で書きました「現実社会の色々な問題に直面する中で、阿弥陀如来の願いにたずね、自らの進むべき道を問い、念仏をよりどころに生きる」道が見出されていくことでしょうか。さらには同じ道を歩む仲間を見出していくのです。そして、最後には受講者が「ああ、連研を受けてきて良かったな」と言えるような、そんな研修にしていきたいと願っております。

祠堂経法座ご案内

各寺院の祠堂経法座の日程をお知らせします。※日程は変更になる場合があります。

お斎等の詳細については、各寺院にお問い合わせください。

本保 本正寺

五月十七日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 真宗大谷派 法泉寺 若院 師

笹川 廣濟寺

六月三日 朝 九時三十分 昼 二時
六月四日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

内島 教願寺

六月十日 昼 二時
六月十一日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 富山市水橋 石川 了英 師

四日市 浄明寺

六月十三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

麻生谷 西光寺

六月十九日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
六月二十日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 氷見市布施 圓山 望 師

上向田 浄永寺

六月二十日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 射水市市井 公文名 眞 師

石堤 長光寺

七月一日 昼 一時三十分
七月二日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
七月三日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 氷見市脇 寺西 良夫 師

赤丸 性宗寺

七月五日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 福岡町大野 新原 忠男 師

三日市 光源寺

七月九日 昼 二時
七月十日 昼 二時
法話 高岡市戸出六十歩 林 要昭 師

辻 西福寺

七月十二日 朝 十時 昼 二時三十分
法話 石川県加賀市 日下 賢裕 師

立野 永念寺

八月二日 昼 二時
八月三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 未定

山岸 珉照寺

八月二十日 昼 二時三十分
八月二十一日 朝 十時 昼 二時三十分
法話 南砺市城端 杉谷 淳志 師

黎明講座のご案内

各寺院の黎明講座の日程をお知らせします。どうぞお誘い合わせのうえお参りください。
時間については、変更がありますので、各寺院にお問い合わせください。

山岸 珉照寺

七月二十八日 朝 五時三十分
七月二十九日 朝 五時三十分
七月三十日 朝 五時三十分

三日市 光源寺

七月三十一日 朝 五時三十分

笹川 廣濟寺

七月三十一日 朝 五時三十分
八月一日 朝 五時三十分

石堤 長光寺

八月一日 朝 五時三十分
八月二日 朝 五時三十分
八月三日 朝 五時三十分

内島 教願寺

八月十三日 朝 五時三十分
八月十四日 朝 五時三十分
八月十五日 朝 五時三十分

◆◆◆ 五位組行事予定 ◆◆◆

五位組念仏奉仕団

六月十七日～十八日
京都本山にての清掃奉仕
普段はなかなか入れない書院
を拝観したりします。

第十一回連続研修会

開講式二〇一五年
三月二十九日(日)から
二〇一六年八月まで

第十七回五位組

夏休み子ども大会

七月下旬または八月上旬
場所 内島 教願寺

二十五日講・平等講

両講合同夏期研修会

八月上旬
場所 こぶし荘

編集後記

第十一回連続研修会
(連研)が、三月より開
講されております。これ
まで3回の研修が開催さ
れました。

研修会は、親鸞さまが、
お念仏のみ教えに出会わ
れた喜びを私たちが生活
の中で受け止める場であ
ります。話し合い法座で
は、自分の姿に気づいた
り、生き方が深められる
場であり、ご縁を大切に
したいと思っております。

五位組だよりは、今後
も、皆様に親しみを感じ
ていただけるように心が
けます。「知りたいこと・
ご意見・感想」など皆様
からのご意見お待ちしております。

合掌